

ロータリー財団：

樋口金占君 芦田委員長欠席、代りにBOXに協力。

山上茂夫君 三条市社会教育協会には何時も御協力いただき有難うございました。

卓 話： 米山奨学・ロータリー財団合同記念卓話 藤田説量パストガバナー



米山奨学とロータリー財団については、私は皆さんと同じ程度しか知らないと思います。と言いますと、皆さんに大変矢礼な言い方に成ると思いますけれど、ロータリー財団がどんな仕事をしているか、アウトラインはある程度判りますけれど、具体的にどういう仕事をしているかは良く判りません。そこで資料を見てまいりました。ロータリー財団で皆さんに1番知られているのは奨学金だと思います。大きく分けて7つ位の奨学金がありまして ①大学院課程の者に対するもの ②大学生に対するもの ③職業研修という意味のもの ④障害者の教師に対するもの ⑤ジャーナリズムに対するもの、ジャーナリズムが国際的な理解度を深める為に設けたのが、ジャーナリズムというものが世の中のものの考え方、論説そういうものを一足早く会得して、これを指導するという立場にあるものでございますが、しかし私供が感じていますのは、新しい次の世代を指導するのではなくして、何か自分が教えられたというか、教条主義的なイデオロギーでものを書くようなジャーナリズムが非常に多いと感じている者です。そういうジャーナリズムの癖というものを自制する意味でも、ジャーナリズム奨学金というものは、おもしろいと、私なりに感じています。⑥飢餓救済に関する低開発国から来た学生に対するもの ⑦GSAの問題、夏期交換に対するものがあります。そういうふうに奨学金に力を入れているのであります。もう一つは、くたびれてきて、あまり言われなく成りましたが、かつては3Hプログラム、そういうものに金を使う。それから災害救済についても、各地で突発的に起きました災害について、ロータリー財団を使ってゆく制度。そして又、ポリオプラスの問題、色々なところに多彩に金を使う計画が、ロータリーのプログラムの中に盛り込まれています。その基金が、ポールハリスフェローの基金が、このものに大きく向けられている。それから日本ではあまり見られませんが、ロータリーのメンバーが自分の関係している会社が大口に入れている。日本の香典返しのような形で自分の関係者の不幸供養の為、追悼の為に多額の金を入れるというように大きな寄与をしているようですが、日本ではそういう形は見られていません。ロータリーが国際融和、世界的な文盲をなくする運動、飢餓をなくする運動、病気をなくする運動この3つについて、世界的視野で奉仕をする、その基金がロータリー財団でございます。ポリオプラスにつきましては特別に大きなものでございますので、別途の形で基金募集を致した訳でございます。ポリオプラスは私の前の上野パストガバナーの時に企画が始まったのでございます。実際に募金に入ったのは、私の年度からでございます。そういう事でございましたが、これに対しては、日本のロータリアンについては賛否両論でございました。それはどういう事かと言うと、日本のロータリーが奉仕を考える場合に1つの教えというのがございました。これが国際ロータリーの手続要覧に載っていますものでございます。これは昨年のものでございますけれども、一ぺん皆様方この手続要覧の81頁社会奉仕の項を読んで頂きますと、ロータリーの社会奉仕についての考え方の哲学というようなものが、非常に詳しく載っています。これは日本が提案して決議されたものです。23—34という決議事項であります。その社会奉仕の哲

学の中に色々大変いい事が書かれています。奉仕の理論が、職業及び人生における成功と幸福の真の基礎である事を団体として学ぶのがロータリーであると、というような誠に高遠な、しかも私共が読んでみてロータリーとは何ぞやという事を理解するのに非常に役に立つ文章がここに綴られているのでございます。その色々な中にロータリーの社会奉仕というのは、クラブ自体がそれぞれの地域において色々考えて奉仕活動を行いなさい。しかもそれは人に寄付を強要されたから出すというのではなく、ロータリー自体が考えて、ロータリー自体がイニシアチブを持つというか、ロータリー自体の考えで奉仕をしなさい、しかもそれは年度を超えないでその年度の会長によって、皆さんの御賛同によって、新しい1つの奉仕をやりなさい、という事がここに書かれているのであります。ところがこの23—34という決議が、ポリオプラス計画の1つの隘路^{あいろ}というか邪魔に成って来た。ポリオプラスは非常に大きな構想ですから5年間これを継続してやらなければならない事に成っています。そう致しますとこの23—34が邪魔に成ってきます。ですから私年度の手続要覧にはこの23—34の決議が省かれたのでございます。これはまだ定款を審議する委員会に掛らない内に省かれたのです。それで私共が、ガバナーの勉強会にアメリカへ呼ばれました時に、当時理事でありました伊藤さんに、どうして除かれたのかと、我々が我々より古いロータリアン、先輩達はこの23—34を最も中心的な、最も美しい哲学として遵法して、日本のロータリーは育てて来た事を知っているのだ。それをなぜ手続要覧から省いたのか、という事を理事に迫ったといいますが、ちょっと物言いをつけたような場面もありました。その時の色々のは23—34が否決されていなくても、ここに載っていないけれども、それは有効であるという。苦しい説明がありましたけれど、理事会の趨勢としてこれを省く事が事前に了解されていた節があったのですが、しかし私達が国際奉仕の大きい問題を考えるのではなくて、地域の社会奉仕を考える、その街のある1つのロータリーが仕事をする面でのものの考え方の指針として23—34というものが非常に大切なものである。これは失いたくない、決してポリオプラスを阻む哲学ではないんだ。時代が新しく変わってまいりまして、ロータリーが世界の平和とか、大きい事を言うけれども、実際にロータリークラブによって、世界の戦争を止めさせる事ができるか。そういう事を考えますと、口では簡単に人類の平和だとか、世界の平和だとか言うけれども、そういう事にプラスするロータリーの実像は何もない訳です。しかし今の世界で何らかの働き掛けをしなければ、本当の意味の人類の平和だとか、幸せとかを論ずる資格がない事を良く私達は判っているつもりでございしますが、その仕事の1つとしてポリオプラス、世界中の子供から病気を無くするような運動を提唱して、そして世界の平和の為の基礎作りをまず、健康から作っていかうではないかという考え方にな大いに同調すべきものである。けしてこれを阻む23—34ではないという事を私達は言ったのでありますが、そしたら、次の年の手続要覧から復活したという謂があるのであります。それ程日本のロータリーを育てた1つのポイントとして大切なものでございますので、社会奉仕を考える色々なロータリーの基本的な物の考え方を学ぶ上で一辺これを勉強する機会を皆様方に持って頂けるならば、より良くロータリーを理解して頂けるのではないかと考える者でございます。米山奨学につきましては、もう既にご存じだと思いますが、日本のロータリーの創設者と言いますか、1番早くロータリーを導入した米山梅吉という方が提唱致しました。日本に入って来た留学生をめんどう見ようという、これは日本独自のものであります。ですからこれはご存じの米山奨学金に対する基金は免税措置が行われています。日本が非常に経済大国だと言って注目されているのに留学が非常にしにくい状態である。日本に留学という名前で労働する